

# 福岡大学 医学会ニュース

# No. 65

福岡大学医学会 福岡大学医学部内



名誉教授  
前脳神経外科学教授  
**福島 武雄**

## 定年退任に当たって —教室一筋の三十八年八月の臨床

福岡大学医学部脳神経外科が開設された昭和四十八年八月に赴任し、三十八年八月の長きにわたり脳神経外科臨床を学び、実践し、教育し、教室には大変お世話になりました。考えれば、医師としての大半を教室一筋に歩んできたことになり、特に平成十二年四月、主任教授を拝命して以来、教室に築かれた患者中心の医療を、更なる確かな技術を習得し信頼される医療に発展させるため全力を捧げてきました。少し期間が短く、教室の方向性が出来たとこ

ろでの退任となり、十分な成果を出すことは出来ませんでした。優れた臨床医を世に送ることが出来たことには大変満足しています。ただ、現状では老兵はただ黙って去るのみの心境です。私は、脳神経外科臨床の全ての分野に興味があり、血管、腫瘍、外傷、小児、脊髄、機能外科、末梢神経の分野を手がけましたが、特に脳腫瘍に最も興味があり、中でも間脳下垂体腫瘍、下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫に力を入れました。臨床の主なテーマの一つとして手術

の症例に対しメスをふるってきましたが、考えてみると世の中にどれだけ貢献が出来たかは、いささか心苦しいところがあります。確かに、患者さんから感謝の念を受けることがほとんどでしたが、必ずしも思うような結果が得られないこともあり身の切れる思いをしたことも何度かあります。今でもこの事は深く脳裏に刻まれ離れることはありません。ただ言えることは、あらゆる状況において、患者さんを第一に考え、全力を尽くしてきたことは自信を持って言うことができます。脳神経外科臨床に当たっては、技術も大切ですが、最も重要なことは、基本的な考え方で、あらゆる病態に於いて、患者さんは何を望んでいるの



か、それに答える必要がありません。臨床は結果さえ良ければ個々の幸せにつながるかと言えれば決してそれはありません。また、大学としての使命は、確かな臨床を行うことは勿論ですが、優れた臨床医を育成し、新たな治療を生み出す研究を忘れてはならないと考えます。これまで、本当に多くの方々に、ご指導と暖かい言葉を戴き、励まされ、教室を先導することが出来ました。ご支援に感謝申し上げます。医学部および病院の更なる発展をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。



教務委員  
**廣松 賢治**

## 平成25医学科新カリキュラムの目指すもの

昨年十二月一日より教務委員に就任いたしました医学部微生物・免疫学の廣松賢治です。宜しくお願ひ申し上げます。医学教育カリキュラムの見直し・改革は、福岡大学医学部の医師国家試験成績不振を解消するための中長期的な対策として求められています。また、このカリキュラム改革は、平成二十三年三月に改訂されたモデルコアカリキュラムの改訂の主眼(基本的診療能力の確実な習得、地域医療を担う意欲の向上、基礎と臨床の有機的連携による研究

マイノリティの滋養)にも合致したものでなければなりません。さらに、地域医療崩壊と医療のグローバル化など時代の変化に答えたり、グローバルスタンダードな医科大学評価基準に対しても将来的にクリアできるようにする必要があります。ここ数年の福岡大学医学部は学修意欲低下や基礎学力不足等による成績不振者の増加が顕著であり、今やおよそ三十%に達する勢いです。その要因としての少子化の進行・医学部定員数増による医学部難易度の低下に加えて、本学の医師国家

試験成績の不振がさらなる負の連鎖を生む原因になることが危惧されま

る。課題発見・解決能力の育成は、高学年で求められる臨床推論能力の育成に直結するものです。M5/M6での臨床実習では、臨床実習時間数(全国医科大のなかで下位五校にはいる少なさ)の拡充に加えて、見学型臨床実習から診療参加型臨床実習への実質的転換が強く求められます。医師国家試験問題出題基準も、卒後臨床研修の現場での対応を想起させる問題など基本的臨床能力・臨床推論能力を問うものへと見直しがなされ、今後ますます臨床実習の重要性が高まること予想されます。M1からM6までのすべての学年に存在するこれらの課題を解決するなかでも、医師国家試験合格率を上げるために真に必要なことは、卒業要件を厳しくすることにより国家試験成績を上げる「出口コントロール」ではないと私は思います。出口を絞りこむことによる効果は一過性であり、すぐに下降することとは過去の例にも明らかです。今こそ学生、教員意識の変革の呼び水になるような抜本的改革、innovationが必要とされていると思います。

以上述べましたような問題把握にたった上で、平成二十五年からの新カリキュラム(完成年度平成二十六年)では以下のような盛り込んでいきます。①初年次医学教育の充実(M1) fitness to practice・医療プロフェッションナリズムの注

入、②基礎医学研究室配属・SS対策(M2/M3)、③臨床医学プロ

### 福岡大学医学会 第66回例会および第35回総会(報告)

日時:平成24年9月28日(金)17:00~18:35  
場所:医学部臨床大講堂

- 第66回福岡大学医学会例会 【進行】 集会幹事 三宅 吉博
  - 開会の辞 集会幹事 三宅 吉博
  - 会長挨拶 医学部長 久保 真一
  - 第14回福岡大学医学会賞受賞論文講演(講演15分 質疑応答含む)
    - 講演者1...岩田 敦 座長...朔 啓二郎
    - 講演者2...倉原 琳 座長...井上 隆司
    - 講演者3...原田 慶美 座長...立花 克郎
  - 第14回福岡大学医学会賞金賞論文投票
  - 新任教授講演(講演25分, 質疑応答5分)
 

講演者...中島 衡 (腎臓・膠原病内科学) 座長...久保 真一  
「ループス腎炎; その病像決定に関わる免疫反応について」
- 第35回福岡大学医学会総会 【進行】 庶務幹事 宮本 新吾
  - 議 事
    - 報告事項
    - 平成23年度会計報告および平成24年度予算案
    - その他
  - 第14回福岡大学医学会賞授賞式 【進行】 集会幹事 三宅 吉博
    - 開票結果発表
    - 授賞式
  - 閉会の辞 集会幹事 三宅 吉博

第14回福岡大学医学会賞の開票結果、論文名および受賞者の写真は4面に掲載

# 新風

平成24年4月1日付けて本学へ赴任、昇格された方に自己紹介をしていただきました。



腎臓・膠原病内科学教授  
中島 衡

今年度から腎臓・膠原病内科の教授を拝命いたしました。二〇〇七年十月に赴任して以来、リウマチ膠原病の診療を行うとともに、准教授の立場から、教室の運営に携わってきました。膠原病は、免疫異常に基づく全身性の炎症性疾患です。診療科をいくつもまたがる診療を行います。多くの先生のご協力を得て、満足度の高い医療を提供することが出来ていると自負しております。この場をお借りして、御礼申し上げます。我々の教室は、膠原病専門医と腎臓病専門医が協力して診療を行うという全国的に見てもユニークな臨床教室です。全身を診ることを第一番目に考える医師の育成を目指しています。お互いの立場からの自由な発想を診療・研究に結びつけることに努めます。私は、一九八一年に九州大

## 臨床研究支援 センター教授

野田 慶太



学を卒業後、九大第一内科(当時柳瀬敏幸教授)に入局いたしました。一九八二年から二年間テキサス大学にて生化学的手法を、一九八六年から八年間国立遺伝学研究所にて分子生物学的手法を学び、遺伝学に没頭しました。技術の進歩と輩出される新しい知見の斬新さと豊富さに驚きながらも、それを体感することが出来る環境で、研究者として過ごすことが出来たのは貴重な経験でした。一九九四年に臨床医に戻りました。当時の臨床の現場には、分子生物学的知見や検査が怒濤のように導入され、症例を遺伝子レベルまで検討することも珍しくなくなっていました。私がそれまで修得した技術や成果は、単なる外注可能な検査項目となりつつありました。独自の研究の方向を見いだせずにおどろおどろしましたが、多くの患者さんの診療を通して、さまざまな疑問が湧き始めました。おそらく基礎の教室で修得した技術ではなく、学んだ遺伝学の知識がこれらの疑問を想起させる原動力だったと思います。湧き上がってきた独自の疑問に対して、試行錯誤して自分自身の答えを出すことが臨床医のオリジナルな研究ではないかと考えるようになりました。同じ疑問を持つ後輩と一緒にデザインした研究は、討論内容も深く、結果解釈にも熱が入り、没頭してしまいます。論文受理の知らせが届くまでは、様々な困難があります。この過程を共有した後輩との信頼関係は何事にも代えることができないものです。これからは多くの先生のご意見を伺い、沢山の疑問を感じて、自分なりに答えを出す感覚を共有できる仲間と大学生を送ることを願っております。宜しくお願ひ申し上げます。

## 看護学教授

高谷 嘉枝



このたび、本年四月一日より看護学において基礎看護学領域を担当させていただきますことになりました。ここに慎重にご挨拶をさせていただきます。私は、看護管理学を中心とした教育と研究に携わり、また、これまで看護管理の実践を行ってまいりました。九州の地は初めてであり、周囲の方たちから福岡県に行く動機などをよく尋ねられたものでした。今から思いますが、古来より進取の気配に富んだこの地に親しみを覚えていたこともあったと思っております。私の専門の領域である看護の実践の場は、ここ数年、社会のあらゆる分野で起きている著しい変化の渦中にあります。人々は保健医療福祉の場において質の豊かさを求め、病院は、単に病気を治す生活保障のために収容する場のみならず安全・快適さが追及されています。私は、急激な社会変化や質が問われる時代に看護管理者がその専門的な役割を果たすことにより、医療における変革に貢献できると考えております。これまで看護管理者や看護師の方々を対象として、職場環境やリーダーシップ、職場適応などに関する調査研究を行ってきました。この経過の中で痛切に感じますのは、大学での看護管理教育の必要性でありました。本学の看護を志す学生に教育を通じて、ケアを受ける人々とケアを提供する看護者が、お互いに尊重され、いきいきとした生活ができる場を創生できる看護管理学を伝えていきたいと思っております。

## 看護学教授

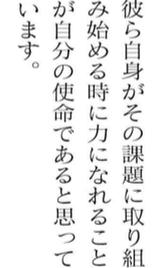
宮林 郁子



このたび、看護学成人看護学・大学院成人看護学支援領域の担当として着任いたしました。十数年前に、二十数年の在米生活に終止符を打って、鳥取大学の保健学設置のために当時の医学部長であった竹下研三先生に呼ばれ帰国しました。その後も大学や大学院の準備や設置に関わる仕事をさせていだいて、福岡大学が四校目となります。長い在米生活で、看護学基礎教育がいかに重要であるかを、臨床上でひしひしと感じ、大学院修了後にウイスコンシン大学で、学部教育を受けたことが自分の最大の力となりました。また Dr. Diakonann の *adv. hermeneutic phenomenology* を学ぶことも、後で「臨床が教育に求めているものをどのようにカリキュラムに組んでいくか」という自分の課題になっていきました。日本でもここ十年余りの間に看護系大学・大学院の数は飛躍的に増えていきました。それに沿って、教育内容も実践力を重視したカリキュラムが求められています。未だに項目ばかりの検討で始まっているようです。後在在研修で、フロリダ大学で専門職教育カリキュラムを学んだときに、専門職教育には十年先に通用する人材と五十年の社会情勢の変容に対応できるカリキュラムが求められていることを痛感しました。年々数を増す看護系大学・

## 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科准教授

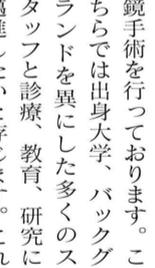
山下 眞一



このたび大分大学より呼吸器・乳腺内分泌・小児外科(岩崎昭憲教授)にお世話になることになりました。私は、昭和六十一年三月熊本大学医学部を卒業後、同外科学第二講座に入局し一般外科を研修後、昭和六十三年七月より国立療養所松戸病院(現国立がん研究センター東病院)で呼吸器外科の修練を積み、平成二年四月から熊本大学医学部大学院にてヒト乳癌組織中における膜型ホスホリパーゼA2の役割および胃癌細胞株におけるインターロイキン6と膜型ホスホリパーゼA2の関係に関する研究で学位を取得しました。更に同大学院在学中に熊本大学医学部遺伝発生研究施設、山村研一教授の下でトランスジェニックマウスの作成および標的遺伝子組み換えの技術を修得し、平成六年四月より二年間ジュネーブ大学医学部免疫病理学教室の Pierre Vassalli 教授の下でCD44のノックアウトマウス作成およびT細胞アポトーシスの研究を行いました。平成九年四月より、国立病院機構熊本医療センターに勤務し、外科全般にわたる診療および臨床研究を行いました。平成十八年八月より大分

## 脳神経外科准教授

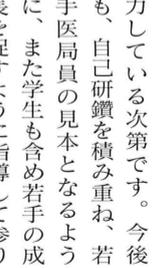
上羽 哲也



本年四月より福岡大病院脳神経外科准教授に任せられました上羽哲也です。平成二十二年十月より福岡大病院脳神経外科講師に就任し一年半が経過しました。その間、右も左もわからない状況の中で、各科の先生方、看護師、リハビリテーション療法士の方々、中央検査科の技師の方々とともに大変お世話になりました。井上教授のご指導のもと、脳腫瘍を中心に手術等日常診療に取り組みで参りました。昨年の十月からは外来医長として外来診療にも深くかかわって参りました。准教授になり半年が経過しましたが、大学院への参加など仕事の質、量にも変化しております。井上享教授のもと、士気の高い若手医局員が増えており准教授として質の高い指導が要求されております。私は脳腫瘍が専門ですので、腫瘍のバイオロジー、手術解剖と手術技術、最新の知識を若手医局員に伝えることが肝要であり、さらに論理的に思考することにより一例一例を大切に

## 総合周産期母子医療センター准教授

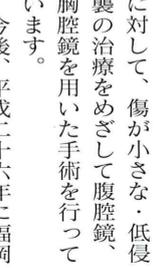
廣瀬龍一郎



本年四月より、総合周産期母子医療センター准教授(小児外科)を拝命いたしました。昭和五十九年に九州大学を卒業後、九州大学小児外科で、各科の先生方、看護師、リハビリテーション療法士の方々、中央検査科の技師の方々とともに大変お世話になりました。井上教授のご指導のもと、脳腫瘍を中心に手術等日常診療に取り組みで参りました。昨年の十月からは外来医長として外来診療にも深くかかわって参りました。准教授になり半年が経過しましたが、大学院への参加など仕事の質、量にも変化しております。井上享教授のもと、士気の高い若手医局員が増えており准教授として質の高い指導が要求されております。私は脳腫瘍が専門ですので、腫瘍のバイオロジー、手術解剖と手術技術、最新の知識を若手医局員に伝えることが肝要であり、さらに論理的に思考することにより一例一例を大切に

## 筑紫病院外科准教授

三上 光治



本年四月一日より筑紫病院外科の准教授を拝命いたしました。一九九〇年に福岡大学を卒業し、福岡大学第二外科に入局しました。第二外科で研修をスタートし、浜の町病院麻酔科、日本医科大学救命センター、国立福岡中央病院(現九州医療センター)外科で外科治療に必要な様々な知識を学び、多くの症例を経験しました。その後、福岡大学大学院医学研究科(人間生命科学)に進み、抗がん剤多剤耐性の基礎的研究を行い、「DT-Diaphorase as a critical determinant of sensitivity to mitomycin C in human colon and gastric carcinoma cell lines」で学位を取得いたしま



した。国立療養所南福岡病院(現福岡病院)外科で呼吸器外科の臨床経験を積みまし



神経内科学講師 深江 治郎

このたび、坪井義夫教授のご推挙により神経内科学講師を拝命し、平成二十四年四月より着任いたしました。私は

このたび、坪井義夫教授のご推挙により神経内科学講師を拝命し、平成二十四年四月より着任いたしました。私は



精神神経科講師 内田 直樹

この度、西村良二教授のご推挙により平成二十四年四月から福岡大学病院精神神経科の講師を拝命致しました。

私は長崎県南島原市出身です。平成十五年琉球大学を卒業後、福岡大学医学部精神医学教室に入局しました。福岡大学病院、福岡県立精神医療センター太宰府病院での研修後、平成十八年に大学院に進みました。大学院では、認知症の周辺症状(幻覚、妄想、不安、徘徊、興奮などの問題行動)に対して臨床場面での効果が明らかとなつて



消化器外科講師 武野 慎祐

山下裕一教授の御高配により四月より消化器外科教室でお世話になり、食道外科を主に担当しております。一九六六年、大阪府豊中市の生まれで、以後は大分県白杵市で育ちました。趣味はサッカー観戦で、大分時代の大分トリニータは勿論ですが、ドイツ留学時代にはドルトムントの大ファンで片道二時間かけて足繁く応援に通っていました。



筑紫病院外科講師 東 大二郎

このたび前川教授のご推挙により福岡大学筑紫病院外科の講師を拝命しました。私の経歴は平成五年福岡大学筑紫病院外科入局以来、ほぼ筑紫科の講師を拝命いたしました。秋吉祐一郎と申します。私は太宰府市の出身で、平成三年に筑波大学医学部を卒業後、筑波大学病院麻酔科レ



筑紫病院整形外科講師 秋吉祐一郎

このたび柴田陽三教授のご推挙を頂き平成二十四年四月より福岡大学筑紫病院整形外科の講師を拝命いたしました。私は太宰府市の出身で、平成三年に筑波大学医学部を卒業後、筑波大学病院麻酔科レ

局当時からマンパワーの問題、地域に密着した病院の性質上、良性・悪性疾患問わず外科全般にわたり担当してきましたが、専門は炎症性腸疾患(IBD)の外科治療です。IBDは狭義においてクローン病と潰瘍性大腸炎を指しますが、以前は比較的稀な疾患と考えられていたものが、現在では両疾患を合わせた患者数が全国で十五万人以上と推定され、近年患者数が著しく増加しています。内科治療が第一の疾患ですが、原因不明で根本的治療がない現在、IBDの外科治療はこれからは必要が減少することはないと思われ、筑紫病院は連携する消化器内科、病理部とともにIBDの分野におきまして全国トップレベルで患者さんも九州はもとより全国から集まっています。おかげで当科は西日本におきまして第二位の手術症例数を誇りIBD外科の研鑽の場としては申し分ない環境です。

外科医不足が叫ばれる昨今、その中におきましてもIBD外科医となりまして問題はより深刻です。これからIBDの外科治療を中心に臨床・研究を続けてまいりますが、今後は後進の育成がより重要と考えています。

このたび福岡大学筑紫病院外科の講師を拝命しました。私の経歴は平成五年福岡大学筑紫病院外科入局以来、ほぼ筑紫科の講師を拝命いたしました。秋吉祐一郎と申します。私は太宰府市の出身で、平成三年に筑波大学医学部を卒業後、筑波大学病院麻酔科レ

このたび、看護学科講師を拝命いたしました。私は、久留米大学医学部看護学科及び福岡教育大学大学院を卒業し、久留米大学病院での看護師、福岡県宮若市での保健師を経て、西南女学院大学で大学教員となりました。西南女学院大学では、助手として看護学生の実習・演習に携わり、北九州市における市民センターを拠点とする健康づくり事業にも参加してまいりました。その後、山口大学大学院医学系研究科へと進学、地域看護学分野の守田孝忠教授から指導を受け学位を取得し、現在も行政の保健師活動に関与する研究に取り組んでまいりました。その間、「小児救急看護師の活用と研修プログラムの開発」研究班に参加し、小児救急認定看護師認定看護分野の特定申請の意見書の作成に協力しました。また、「研究成果を実践に根付かせるための専門看護師を活用した臨床」研究システムの構築「家族看護エンパワーメントガイドライン」の小児看護実践への導入と効果検証を「研究」を通じて」というテーマの研究に参加し、実践と研究者をつなぐ役割を果たしてきました。

このたび、看護学科講師を拝命いたしました。私は、久留米大学医学部看護学科及び福岡教育大学大学院を卒業し、久留米大学病院での看護師、福岡県宮若市での保健師を経て、西南女学院大学で大学教員となりました。西南女学院大学では、助手として看護学生の実習・演習に携わり、北九州市における市民センターを拠点とする健康づくり事業にも参加してまいりました。その後、山口大学大学院医学系研究科へと進学、地域看護学分野の守田孝忠教授から指導を受け学位を取得し、現在も行政の保健師活動に関与する研究に取り組んでまいりました。その間、「小児救急看護師の活用と研修プログラムの開発」研究班に参加し、小児救急認定看護師認定看護分野の特定申請の意見書の作成に協力しました。また、「研究成果を実践に根付かせるための専門看護師を活用した臨床」研究システムの構築「家族看護エンパワーメントガイドライン」の小児看護実践への導入と効果検証を「研究」を通じて」というテーマの研究に参加し、実践と研究者をつなぐ役割を果たしてきました。

このたび、看護学科講師を拝命いたしました。私は、久留米大学医学部看護学科及び福岡教育大学大学院を卒業し、久留米大学病院での看護師、福岡県宮若市での保健師を経て、西南女学院大学で大学教員となりました。西南女学院大学では、助手として看護学生の実習・演習に携わり、北九州市における市民センターを拠点とする健康づくり事業にも参加してまいりました。その後、山口大学大学院医学系研究科へと進学、地域看護学分野の守田孝忠教授から指導を受け学位を取得し、現在も行政の保健師活動に関与する研究に取り組んでまいりました。その間、「小児救急看護師の活用と研修プログラムの開発」研究班に参加し、小児救急認定看護師認定看護分野の特定申請の意見書の作成に協力しました。また、「研究成果を実践に根付かせるための専門看護師を活用した臨床」研究システムの構築「家族看護エンパワーメントガイドライン」の小児看護実践への導入と効果検証を「研究」を通じて」というテーマの研究に参加し、実践と研究者をつなぐ役割を果たしてきました。

このたび、看護学科講師を拝命いたしました。私は、久留米大学医学部看護学科及び福岡教育大学大学院を卒業し、久留米大学病院での看護師、福岡県宮若市での保健師を経て、西南女学院大学で大学教員となりました。西南女学院大学では、助手として看護学生の実習・演習に携わり、北九州市における市民センターを拠点とする健康づくり事業にも参加してまいりました。その後、山口大学大学院医学系研究科へと進学、地域看護学分野の守田孝忠教授から指導を受け学位を取得し、現在も行政の保健師活動に関与する研究に取り組んでまいりました。その間、「小児救急看護師の活用と研修プログラムの開発」研究班に参加し、小児救急認定看護師認定看護分野の特定申請の意見書の作成に協力しました。また、「研究成果を実践に根付かせるための専門看護師を活用した臨床」研究システムの構築「家族看護エンパワーメントガイドライン」の小児看護実践への導入と効果検証を「研究」を通じて」というテーマの研究に参加し、実践と研究者をつなぐ役割を果たしてきました。

このたび、看護学科講師を拝命いたしました。私は、久留米大学医学部看護学科及び福岡教育大学大学院を卒業し、久留米大学病院での看護師、福岡県宮若市での保健師を経て、西南女学院大学で大学教員となりました。西南女学院大学では、助手として看護学生の実習・演習に携わり、北九州市における市民センターを拠点とする健康づくり事業にも参加してまいりました。その後、山口大学大学院医学系研究科へと進学、地域看護学分野の守田孝忠教授から指導を受け学位を取得し、現在も行政の保健師活動に関与する研究に取り組んでまいりました。その間、「小児救急看護師の活用と研修プログラムの開発」研究班に参加し、小児救急認定看護師認定看護分野の特定申請の意見書の作成に協力しました。また、「研究成果を実践に根付かせるための専門看護師を活用した臨床」研究システムの構築「家族看護エンパワーメントガイドライン」の小児看護実践への導入と効果検証を「研究」を通じて」というテーマの研究に参加し、実践と研究者をつなぐ役割を果たしてきました。



このたび、看護学科講師を拝命いたしました。私は、久留米大学医学部看護学科及び福岡教育大学大学院を卒業し、久留米大学病院での看護師、福岡県宮若市での保健師を経て、西南女学院大学で大学教員となりました。西南女学院大学では、助手として看護学生の実習・演習に携わり、北九州市における市民センターを拠点とする健康づくり事業にも参加してまいりました。その後、山口大学大学院医学系研究科へと進学、地域看護学分野の守田孝忠教授から指導を受け学位を取得し、現在も行政の保健師活動に関与する研究に取り組んでまいりました。その間、「小児救急看護師の活用と研修プログラムの開発」研究班に参加し、小児救急認定看護師認定看護分野の特定申請の意見書の作成に協力しました。また、「研究成果を実践に根付かせるための専門看護師を活用した臨床」研究システムの構築「家族看護エンパワーメントガイドライン」の小児看護実践への導入と効果検証を「研究」を通じて」というテーマの研究に参加し、実践と研究者をつなぐ役割を果たしてきました。

### 祝「第14回 福岡大学医学会賞」

**金賞 (1名)** 原田 慶美  
Ultrasound activation of TiO<sub>2</sub> in melanoma tumors

**銀賞 (2名)** 岩田 敦  
Antiatherogenic effects of newly developed apolipoprotein A- I mimetic peptide/phospholipid complexes against aortic plaque burden in Watanabe-heritable hyperlipidemic rabbits  
倉原 琳

Counteracting effect of TRPC1-associated Ca<sup>2+</sup> influx on TNF- $\alpha$ -induced COX-2-dependent prostaglandin E<sub>2</sub> production in human colonic myofibroblasts



講演された先生方を囲んで  
(左から 倉原先生、井上先生、原田先生、立花先生、久保医学会会長、岩田先生、中島先生、朔先生、三宅先生)

### 教室紹介 心臓血管外科学

心臓血管外科講座が、開講し現在まで三十七年が経過しました。平成十六年より田代 忠教授のもと医局員十人で教育、研究、診療を行っています。成人心臓病、主に虚血性心疾患、弁膜疾患、大血管、末梢血管が診療範囲です。この分野の治療はめざましい勢いで発展しています。虚血性心疾患の主な手術は冠動脈バイパス術(CABG)ですが、当科の特色は人工心肺を使用しない手術(オゾンポンプ手術)を早期

形成術が可能であり、約10cm程度の創切開による低侵襲手術も行っています。大血管疾患は大動脈瘤や大動脈解離が主な疾患ですが、平成二十三年より胸部ステント認定施設となり、昨年は三十三例のステント治療(胸部八例、腹部二十五例)、本年は(八月まで)、四十例のステント治療(胸部二十五例、腹部十五例)と増加傾向です。末梢血管は閉塞性動脈硬化症が主な対象ですが、近年は糖尿病壊疽や血液透析患者さんの増加によりその内容も重症かつ多岐病変が多い状況です。カテーテル治療やバイパス術が行われますが、高い技術により症状の改善は良好でかつ三〜四日の入院期間です。研究面ではバイパス術後のQOLの追跡調



(文責:西見 優)

### 教室紹介 法医学

法医学教室では、「法医学実務に還元できる研究」をモットーに、法医学、法中毒学、法医学、法中医学の三分野の研究に取り組んでいます。スタッフは、教授・久保真一(長崎大学医学部卒・同大学院医学研究科修了)、講師・原 健二(福岡大学理学部卒)、助教・柏木正之(弘前大学医学部卒)、松末 綾(九州大学薬学部卒・同大学院薬学研究科修了)、ブライアン・ウォータース(ノースカロライナ州立大学卒・カリフォルニア州立大学ロサンゼルス大学院修了)の教員五名と教育技術職員二名、研究生三名、ポストドク二名、研究補助職員二名の合計十四名です。



主な研究内容は、法医学の研究では、様々な死因について、新しい診断方法の開発に取り組んでいます。私たちが研究しています。解析で有数の実績を誇る研究室ですが、ガスクロマトグラフ・質量分析装置GC-MSや液体クロマトグラフ・質量分析装置LC-MS/MSを駆使し様々な

薬物の分析に取り組んでおります。この夏には、最新のGC-MS/MSが導入され、一層の分析の発展が期待されます。法医学清道学の研究では、剖検診断に関わる遺伝子異常の検索、突然死関連遺伝子、横紋筋融解症関連遺伝子の検索を行っています。DNA多型検査による個人識別では、厚生労働省の委託を受け、第二次世界大戦戦没者の遺骨鑑定に取り組みいております。

法医学は、法医学解剖を行う教室のイメージが大きいかと思いますが、今回紹介させて頂いたように、私たちは、様々な研究に取り組んでいます。これからも宜しくお願致します。(文責:久保 真一)

### 長い間 ありがとうございました

(平成24年3月1日~9月30日までに退職された方)

- 福島 武雄 教授 (脳神経外科学)
- 金山 正子 教授 (看護学科)
- 以上、3月31日付け
- 中山 吉福 准教授 (病理学)
- 坂本 雅晴 准教授 (寄付研究・消化器内科)
- 以上、6月30日付け
- 明比 祐子 准教授 (内分泌・糖尿病内科)
- 以上、9月30日付け

### 学位取得

次の方は、平成二十四年三月二十二日付けで福岡大学より医学博士を授与されました。

#### 課程修了による学位取得者

- 小島 大望 (生体制御系)
- 西平 智和 (生体制御系)
- 大石 純 (病態構造系)
- 福岡三子 (病態構造系)
- 三上 洋 (病態構造系)
- 加島 伸浩 (病態機能系)
- 田中 祥継 (病態機能系)
- 矢嶋 智明 (病態機能系)
- 北嶋 哲郎 (病態機能系)
- 杉村 朋子 (社会医学系)
- 本田 洋子 (社会医学系)
- 福島 幹生 (病態生化学系)
- 有村 忠聡 (先端医療科学系)
- 小吉 里枝 (先端医療科学系)
- 熊谷 尚子 (先端医療科学系)
- 讀井 絢子 (先端医療科学系)
- チヨイジャムツ バトスレン (先端医療科学系)
- 吉田 康浩 (先端医療科学系)
- 瀬川 芳恵 (先端医療科学系)
- 茂木 愛 (先端医療科学系)
- 勝屋 弘雄 (先端医療科学系)
- 志賀 悠平 (先端医療科学系)
- 杉原 充 (先端医療科学系)
- 町田 稔 (先端医療科学系)

### 医師国家試験結果報告

第106回医師国家試験(2月11~13日実施)に122人が受験し、95人(新卒78人・既卒17人)が合格しました(合格率は77.9%)。

### 看護師・保健師国家試験結果報告

第101回看護師国家試験(2月19日実施)に116人が受験し、115人が合格しました(合格率99.1%)。また118人中110人が第98回保健師国家試験(2月17日実施)にも合格しています(93.2%)。